

情報シンポ 2019

AIJISA2019 Tokyo

日本建築学会 第42回 情報・システム・利用・技術シンポジウム
42nd Symposium on Computer Technology of Information, Systems and Applications
Architectural Institute of Japan

ARCHITECTURAL REGENESIS

2019.12.12_{THU} 13_{FRI}

建築会館 AIJ Building

Keynotes & Roundtable Discussion

AI とデザイン 中国最新情報・ロボティクスと情報化施工
人間と建築の拡張

AI & Design in China · Robotics & i-Construction
Human & Building Augmentation



コスタス・テルジディス
Kostas Terzidis



トーマス・ボック
Thomas Bock



中村 航
Ko Nakamura



笠原 俊一
Shunichi Kasahara



玉城 絵美
Emi Tamaki



下吹越 武人
Taketo Shimohigoshi

研究開発・実用化デザイン・技術発表と交流 R & D & Practical Design & Technology Presentation, Networking
計画・設計・施工 運用 AI BIM IoT VR AR MR GIS パラメトリックデザイン デジタルファブリケーション デザイン数値 モニタリング 教育

第42回情報・システム・利用・技術シンポジウム

論文／報告応募要領

第42回情報・システム・利用・技術シンポジウムは、建築・都市・環境の各分野を横断するITの新しい可能性を追求する場として、2019年12月12日(木)・13日(金)の二日間、建築会館(東京都港区)を会場として開催します。建築・都市工学の進歩、建築・建設事業の発展、建築設計者・技術者の資質向上に寄与する論文／報告を下記の要領で募集いたしますので、ふるってご応募ください。

「論文」と「報告」の2つのカテゴリーがあり、ともにDVD-ROMで配布します。また昨年より、論文・報告はすべて電子登録・投稿となります。カラー利用の制約はありません。また、論文・報告を合わせて、同一発表者での投稿は2件までとします。

公式HP(電子投稿サイトへのリンク)：

<http://www.aijisa.org/2019/>

<論文応募要領>

1. 応募資格

筆頭著者は本会の正会員(個人)または準会員であること。

2. 論文内容

- (1) 建築、都市、環境関連をテーマとし、**情報システム**の分野からアプローチしたオリジナルで学術的、技術的価値の高い内容であり、理論的または実証的な記述による目的、方法、考察、結論などから構成されていること。
- (2) 未発表のものとするが、本会大会学術講演会、支部研究発表会などで発表されたものは、その限りでない。

3. 執筆要領

- (1) ホームページに執筆の書式を掲載する。
- (2) 原稿はA4判6ページとする。本文が和文のときは、要旨は英文とし、その逆も可。

4. 日程

- (1) 提出：2019年7月12日(金)までに、以下の情報〔**①**論文タイトル、**②**全著者(学会会員番号、氏名、所属、国名、Eメールアドレス)、**③**連絡先著者、**④**カテゴリー(1つ)、**⑤**投稿部門(論文or報告、キーワード(3~6個))、**⑥**パスワード、**⑦**小委員会企画への登録(該当する場合)]を電子投稿サイトに入力したうえで、PDFファイルの原稿を投稿する(7月1日より受付開始)。
- (2) 査読：9月中旬までに査読結果を報告する。
- (3) 最終提出：10月4日(金)までに最終原稿(PDFファイル)及び修正内容一覧表を、zipファイルにより1つのファイルにまとめた上で提出する。ファイルサイズは4MB以下とする。
- (4) 採否：情報システムシンポジウム論文WGにて決定する。

5. 発表要領

- (1) 発表には、PCプロジェクター等を使用する。
- (2) 発表時間は1題あたり15~20分を予定。

6. 著作権等ならびに電子形態による公開

- (1) 著作権は著者に属し、本会は編集出版権をもつ。
- (2) プログラムやソフトウェアを使用する場合、ならびに他の著作物等を引用・転載する場合は、著作権上の問題が生じないよう注意し、必要な場合は著者の責任で処理すること。
- (3) 当シンポジウムに発表された論文について、本会および本会が許諾したウェブサイトからの全ページ公開を認めること。

7. 注意事項など

- (1) DVD-ROM掲載ならびに発表にあたっては、情報・システム・利用・技術シンポジウム参加費〔資料あり〕を支払う必要がある。
- (2) 否とされた論文を報告に変更することは可能とする。

<報告応募要領>

1. 応募資格

筆頭著者は本会の正会員(個人)または準会員であること。ただし、海外居住者、留学生が筆頭著者である場合は非会員でもよい。

2. 報告内容

- (1) 基本的には上記の論文内容に準じるが、事前審査がないので、すべて著者の責任において作成すること。

- (2) 論文としての完成度よりも速報性を重視し、斬新なアイデアや手法、価値あるデータやソフトウェアの開発、実用面に貢献する建築技術なども広く積極的に採用する。

3. 執筆要領

- (1) ホームページに執筆の書式を掲載する。
- (2) 原稿はA4判4ページとする。要旨は必要としない。

4. 日程

- (1) 申込み：2019年7月12日(金)までに、以下の情報〔**①**報告タイトル、**②**全著者(学会会員番号、氏名、所属、Eメール)、**③**連絡先著者、**④**カテゴリー(1つ)、**⑤**投稿部門(論文or報告、キーワード(3~6個))、**⑥**パスワード、**⑦**小委員会企画への登録(該当する場合)]を電子投稿サイトに入力して、登録する(7月1日より受付開始)。
- (2) 提出：10月4日(金)までに原稿をPDFファイルで電子投稿サイトに投稿する。ファイルサイズは4MB以下とする。

5. 発表要領

論文に同じ。

6. 著作権等ならびに電子形態による公開

論文に同じ。

7. 注意事項など

- (1) 内容が商業主義に偏したり、宣伝的色彩の濃いものは、情報システムシンポジウム論文WGの判断で、採用しないことがある。特に、タイトルに固有の商品名の使用を避けること。
- (2) DVD-ROM掲載ならびに発表にあたっては、情報・システム・利用・技術シンポジウム参加費〔資料あり〕を支払う必要がある。
- (3) 報告に提出されたものについては、『日本建築学会論文集』『日本建築学会技術報告集』等に投稿できる。

●論文／報告の発表セッションについて

登録されるカテゴリー、キーワード、および発表内容からセッションを組織する。各セッションには論文と報告の発表が含まれる。

●論文／報告のカテゴリー

- ① Building Information Modeling (BIM)、Computer Aided Design (CAD)
- ② Virtual Reality (VR)、Augmented Reality (AR)、Mixed Reality (MR)、可視化
- ③ 地理情報システム (GIS)
- ④ Artificial Intelligence (AI)、機械学習
- ⑤ ビッグデータ、Internet of Things (IoT)
- ⑥ パラメトリックデザイン、アルゴリズムミックデザイン、ジェネラティブデザイン
- ⑦ 最適化、性能設計、ライフサイクル
- ⑧ 対話的、動的な建築
- ⑨ デジタルスキヤニング、フォトグラメトリ、Structure from Motion (SfM)、点群
- ⑩ デジタルファブリケーション、3Dプリンター
- ⑪ ロボティクス、自動化施工
- ⑫ モニタリング、センシング、データマイニング
- ⑬ 解析モデル、シミュレーション
- ⑭ 人間科学(行動・心理・生理)分野の情報技術応用
- ⑮ 建築計画・設計分野の情報技術応用
- ⑯ 建築構造・材料分野の情報技術応用
- ⑰ 建築環境・設備分野の情報技術応用
- ⑱ 都市地域計画・地球環境管理分野の情報技術応用
- ⑲ 構法・施工・生産分野の情報技術と応用
- ⑳ 建設経済・流通・マネジメント分野の情報と応用
- ㉑ スマートシティ
- ㉒ 建築の情報技術教育と建築教育の情報化
- ㉓ 情報化社会の建築都市ビジョンと情報倫理
- ㉔ 建築情報技術の標準・規準・規格化
- ㉕ 情報インフラ(インターネット、通信)
- ㉖ 情報機器(コンピュータ、モバイル、ウェアラブル)
- ㉗ 情報・メディア・コミュニケーション
- ㉘ ソフトウェア・アルゴリズム
- ㉙ データベース(数値・言語・画像・記号)
- ㉚ その他

論文審査要領

昭和53年 6月 電子計算機利用懇談会決
2004年 6月 情報システム技術本委員会改正決
2018年 5月 情報システム技術本委員会改正決

1. 論文審査は電子投稿サイトを通じて行い、審査結果を論文応募者に伝達する。
2. 判定
 - ・無条件採用とする場合：第3項の基準に照らして妥当なもの。
 - ・条件付採用とする場合：加筆・訂正を必要とするもの。
 - ・不採用とする場合：第3項の基準に達しないもの。また募集条件に合致しないもの。

条件付採用の場合はその条件を、不採用の場合はその理由を、著者へのコメントとして具体的に記入する。

3. 判定のための評価基準は以下のとおりである。

(1) 一般的内容

- 1) テーマ・方法等の獨創性：新しい概念・方法・適用対象、あるいは既知の方法の適用結果の効果測定・問題提起・改良などを含むものであること。
- 2) 論文の完結性：一定のテーマについて目的・方法・結果・結論が明記され、一編の論文として完結していること。
- 3) 将来の発展性：未知の結果の発見、仮説の立証、追試等によって一般性をもち、テーマの将来的な発展に寄与するものであること。
- 4) 商業主義からの中立性：企業名・商品名・施設名などが濫用されていないこと。

(2) 具体的内容

- 1) 論旨の妥当性：論理の飛躍がなく論旨の整合がとれていること。論理の展開のための条件（論拠）が客観的に示されていること。
- 2) 既往研究の照合：既往の関連研究に対する位置づけが適切になされていること。

(3) 表現形式

- 1) 表題の適切さ：論文内容と一致していること。
- 2) 説明の適切さ：記述が明快で的確に理解できること。
- 3) 用語の適切さ：学術用語等、当該分野の用語を用いていること。
- 4) 文献引用の適切さ：文献が明示され、内容の検証と著作権への配慮が適切になされていること。

4. 査読員の決定

論文一編につき3名の査読員を、情報システムシンポジウム論文WGにおいて決定する。

5. 掲載可否の判定

- (1) 査読員3名の査読結果に基づいて、情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集への掲載可否を情報システムシンポジウム論文WGにおいて決定する。
- (2) 掲載可否の判定は原則として以下の要領による。
 - (A) 査読員2名以上が無条件採用の場合：可
 - (B) 査読員2名以上が不採用の場合：否
 - (C) 条件付採用の場合は、修正原稿の再提出を指示する。
 - (D) 再提出原稿の修正の適否の判断は、情報システムシンポジウム論文WGにおいて行う。

6. 異議申し立て

不採用の結果は速やかに応募者に報告され、異議のある応募者は発送日から10日以内に、電子投稿サイトを通じて情報システムシンポジウム論文WGに異議申し立てを行うことができる。情報システムシンポジウム論文WGは、異議の可否を判断し情報システム技術委員会に報告する。

論文執筆要項

1. 「論文」はA4版6ページで構成する。

上下の余白は25mm、左右の余白は20mm。和文は明朝体、英文はローマン体を用いる。

2. タイトル、著者名、所属等、要旨、キーワードは1段組で、本文は2段組で記す。

3. 次の順により記述する。

①題目：14ポイント、ボールド、中央揃え（副題は10.5ポイント）。

英語題目主題は Headline Capitalization, 英語副題は Sentence capitalization とする。

・ Sentence capitalization: Symposium on computer technology of information, systems, and application

・ Headline capitalization: Symposium on Computer Technology of Information, Systems, and Application

②著者名：著者名は日本語、英語の順に9～10ポイントの中央揃えで、日本語の発表者名に○印を付ける。*(合い印)は半角*を上付きにする。英語著者名はHeadline Capitalizationとする。

③所属等：所属・職位・学位は日本語、英語の順に9～10ポイント、左揃えで記す。日本語の所属等には半角の*と著者名に対応した番号を付ける。英語の所属等は Headline capitalization。

④英文要旨：要旨は、本文が日本語の場合は9～10ポイントの英語で200words以内で記述する。

⑤キーワード：キーワードは日本語、英語の順で、最大5つまでを9～10ポイントで中央揃え、それぞれをセミコロンで区切る。英語のキーワードは Sentence capitalization とし、ピリオドで終わる。

※題目と著者名の間、著者名と所属等の間、所属等と要旨の間および要旨とキーワードの間は1行あける。

⑥本文：キーワードの下に2行あけて本文を記す。本文は2段組で、1段の幅は82mm、段組の間は6mmとし、1段にはなるべく25字×48行（文字の大きき9ポイント相当）入るように設定する。寸法内であれば、文字数で1文字、行数で1行程度の差があってもよい。1ページ目については、題目等が入るので本文の行数は各自調整すること。本文の各段落の頭は、必ず字下げ（1文字）する。

⑦図について：本文と図の間は1行空け、図は中央揃えにする。図幅は段の幅82mm以内または2段分の170mm以内。図の次行には図番および図題を設け、図番および図題の下は1行空ける。

⑧表について：本文との間に1行空け、表の前行に表番および表題を設ける。表の幅は、段の幅82mm以内または2段分の170mm以内とし、表の下は1行空ける。

⑨参考文献：6ページ目の最後には、区切り罫線の後に参考文献を8ポイント、行間11ポイントで記す。

報告執筆要項

1. 原稿はA4版4ページとする。要旨は必要としない。
2. その他の事項は論文と同じである。

電子投稿用原稿作成上の注意

1. ファイル形式

電子原稿はAdobe Readerで表示および印刷可能なPDF (Portable Document Format) ファイルで提出してください。

2. ファイルサイズ（容量）の制限

ファイルサイズは5MB以下とします。5MBを超えると受け取れません。またファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティ設定はしないでください。

3. ファイル名について

ファイル名は、「受付番号.pdf」とする。

4. 作成するアプリケーションとOS

原稿を作成するアプリケーションの制限はありません。OSはWindows Vista以上またはMacintosh 10.5以上を推奨します。

5. PDFファイルの作成方法

PDFファイルは、原則としてAcrobat 7.0以降（または同等品）を用いて作成してください。Acrobatの詳細については、<http://www.adobe.com/jp/>をご覧ください。

6. 使用できるフォントの制限

投稿されたPDFファイルはWindowsまたはMacintosh上で稼働するDVDに搭載されますので、原稿内に使用するフォントは以下に限定してください。

OS	Windows	Macintosh (OS 10.5以上)
日本語フォント	MS明朝またはMSゴシック	MS明朝、MSゴシック、ヒラギノ

英字 フォント	Arial、Century、Helvetica、Symbol、Times、 Times New Roman
------------	--

※どうしても他のフォントを利用したい場合は、PDF作成時にフォントの埋込みを行ってください。

7. 使用できる文字

コンピューターの機種により文字化けが発生する可能性がありますので、漢字コードは第二水準以内の文字をお使いください。特にWindowsをお使いの場合で、人名辞書にある「高」や「崎」など第二水準にはない文字がありますので、注意してください。

8. 色使い

本文の文字を黒色とするほかは、色使いの制限は特にありません。

9. 写真や画像などの解像度

写真や画像を含む場合、PDF化することにより、出力品質が劣化することがあります。ファイルサイズ制限内で、PDF化する際のジョブオプションの値を高くして作成してください。

10. 印刷の確認

作成したPDFファイルは一度プリンターで印刷し、執筆者の意図どおり印刷できていることを確認してください。